

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	兵庫県朝来市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	朝来市文化遺産活用活性化計画	【計画の改善時期】 平成34年度	
4 実施計画期間	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>朝来市では、平成25年に第2次総合計画を策定し、「後世に残したい歴史文化遺産の保存活用」を基本計画の施策として、郷土の魅力を活かした文化活動の促進及び地域の歴史文化遺産の保存・活用、継承に取り組んでいる。</p> <p>平成27年度には、朝来市歴史文化基本構想を策定し、朝来市全体の歴史文化遺産を指定・未指定に関わらず整理し、地域で育まれた文化と受け継がれてきた歴史文化遺産を活かしたまちづくり、地域活性化の方針を定めた。</p> <p>本市には、国史跡茶すり山古墳や池田古墳等の古代王墓群、国史跡竹田城跡、重要文化財赤瀧神社本殿をはじめとした中世城郭群や由緒ある寺社仏閣、重要文化的景観の選定を受けた生野鉾山及び鉾山町の文化的景観、関連近代化産業遺産群など古代から中世、近現代それぞれを代表する文化財のほか、長い歴史と伝統の中で生まれ守り伝えられてきた寺内ざんざか踊りや神楽、獅子舞、盆踊りなどの伝統民俗芸能など多様な歴史文化遺産が存在する。これら貴重な資源を地域の宝として保存し、確実に次世代へ継承していくとともに、観光経済振興、地域活性化に活用し、郷土愛を醸成していくことを目的として次の事業を実施していく。</p> <p>1. 国史跡竹田城跡と城下町を活かした保存活用事業（平成23年4月～平成34年3月） 平成24年に策定した竹田城跡と城下町の保存活用計画に基づき、史跡の歴史的価値を地域住民が再認識しながら適切に保存管理していくとともに、積極的に観光振興・地域活性化に役立てていく。また、近世にかけて発展した城下町の町並みや地域独特の民俗祭礼、工芸技術などを把握し、城跡とともに地域活性化に役立てていく。</p> <p>（1）史跡竹田城跡、城下町の町並み等を紹介するボランティアガイドなど人材育成と伝統技術、伝承などの調査活用・継承 （2）史跡竹田城跡と城下町の町並み等の情報発信、普及啓発</p> <p>2. 生野鉾山関連近代化産業遺産群の保存活用事業（平成23年4月～平成34年3月） 各種保存活用計画等「生野鉾山群近代化遺産保存活用基本方針（H20）並びに平成25年に策定した生野鉾山及び鉾山町の文化的景観保存計画（H25）、重要文化的景観生野鉾山及び鉾山町の文化的景観整備計画（H29）」に基づき、以下の事業を実施していく。</p> <p>（1）鉾山町の文化遺産や近代化遺産、重要文化的景観の情報発信 （2）地域の文化遺産や近代化産業遺産を総合的に紹介するボランティアガイドなどの人材育成と歴史文化の継承 （3）鉾山町の歴史的町並みや伝統芸能の保存活用、普及啓発</p> <p>3. 市内埋蔵文化財の保存活用事業（平成23年4月～平成34年3月） 市内には約700基の古墳があり、埋蔵文化財や古墳文化について歴史価値の認識と保存活用を進めていく。</p> <p>（1）古墳や埋蔵文化財を活かした普及啓発 （2）埋蔵文化財センターを拠点とした体験学習</p> <p>4. 歴史的町並みの保存活用事業（平成24年4月～平成34年3月） 本市は古来から但馬丹波道、播磨但馬道の街道接点として発展し、竹田、生野地域をはじめ和田山、梁瀬地域などに古い商家や町家など伝統的町並みが残されており、これらを活用した地域の活性化に向けた調査研究及び住民団体の育成に取り組んでいく。</p> <p>（1）町並みの調査研究及び活用団体の育成 （2）町並みを活かした普及啓発</p> <p>5. 地域の伝統芸能、伝統文化、伝統技術の保存継承事業（平成28年4月～平成34年3月） 寺内ざんざか踊りや宮神楽、羽瀧獅子舞などの伝統芸能等を将来にわたり確実に継承し、発展させていくため次世代の後継者育成や用具の整備等に取り組んでいく。また、有形民俗文化財の活用、普及啓発にも取り組む。</p> <p>（1）伝統文化継承のための用具の新調・修復 （2）茅葺技術や左官技術、伝統工芸技術などの継承と担い手育成、有形民俗文化財の活用、普及啓発</p> <p>6. 中世城郭群の調査、記録作成及び普及啓発事業（平成30年4月～平成34年3月） 竹田城跡を中心として、朝来市には多くの中世城郭が存在している。それら中世山城群を調査、把握することで、竹田城跡だけでなく山城の歴史や魅力を一体的に発信し、地域住民の郷土愛の醸成を図るとともに、観光周遊ルートの開発等、観光振興に結び付ける。</p> <p>（1）市内中世城郭の分布調査、縄張り調査等を行い、成果物を作成する。 （2）調査成果をもとに、中世城郭エリアマップ、観光ルート等を掲載したパンフレットを作成する。 （3）エリアマップ等を使ったモニタリングツアー、イベントを実施し、普及啓発、観光振興を図る。</p>			

6 実施体制			
<p>本事業については、朝来市が全体計画の企画・調整、事業の指導等を行っていく。 主な担当課及び役割 教育委員会文化財課：全体計画の調整、調査研究事業等の指導アドバイス 生野支所：生野鉱山産業遺産等に関する地元団体との調整、指導 観光交流課：観光事業との調整 また、本事業の実施については、次の団体が実施していく。 朝来市文化遺産活用実行委員会（会長 藤原 直樹） 構成団体（生野昔踊り保存会、羽瀨獅子舞保存会、山王神社ざんざか踊り保存会、あさご茅葺き保存会、 ㈱シルバー生野、大蔵地域自治協議会、奥銀谷地域自治協議会、梁瀬地域自治協議会、 NPOいくのライブミュージアム、ほどらいの会あさご暮らし推進協議会、宮神楽保存会、生野観光協会、 朝来市、朝来市教育委員会）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果			別紙①のとおり
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 34,251 千円	平成31年度申請額： 486 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<ul style="list-style-type: none"> ・朝来市内観光客数の増加 ・伝統行事への参加者数、見物客の増加 ・伝統行事等にかかる氏子数の維持 ・朝来市民アンケート内「市内の伝統文化・歴史遺産が大切にされている」満足度の上昇 			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	朝来市による竹田城跡保護整備事業		
事業概要：	梁瀬地域自治協議会による梁瀬地域文化遺産マップの作成		
事業概要：	大蔵地域自治協議会による山城紹介パンフレットの作成		
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
平成27年度に「朝来市歴史文化基本構想」を策定。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	教育委員会事務局文化財課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分1:	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標1:	埋蔵文化財センターの入場者数	関連事業:		梁瀬地域の歴史文化観光啓発事業		
目標値1:	【現状値】 平成 29 年度 30,037 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 31,256 人					
設定根拠1:	山東町の中心にある情報発信基地である埋蔵文化財センターの入場者数による。 平成29年度入場者数から、年度ごとに1%ずつの増加をめざし、平成33年度に現状5%増を達成する。					
進捗状況1:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
30,037 人	31,460 人	人	人	人	人	
0%	117%					
目標区分2:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分2:	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標2:	高田・宮内古墳群への観光客数	関連事業:		大蔵地区古墳群啓発事業		
目標値2:	【現状値】 平成 29 年度 0 (人) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 500 (人)					
設定根拠2:	看板設置とともに、過去に作成したパンフレットを設置し、そのパンフレットの残数から観光客数を計算する。年間100人を目指し、4年間で500人以上の観光を目指す。					
進捗状況2:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 (人)	30 (人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
0%	6%					

